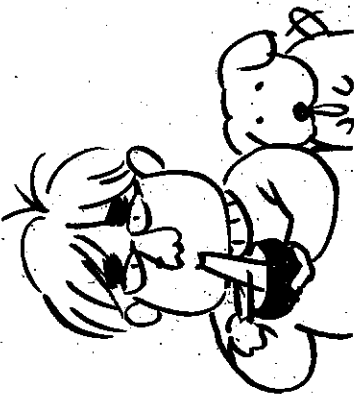


情熱の羅針盤

No. 10 (2024.01.09)

〔2024年がスタートしました!〕



明けましておめでとございます (※中の人ではありませんが、形式的な敬語として使います)。イベント盛りだくさんの冬休みが終わり、いよいよ新しい年が始まりました。休みボケになってしまっている人はいませんか。

さて、年始のおたよりと言えば今年の抱負や目標、やりたいことなど、前向きな話題を散りばめたいところなのですが、2024年最初の日に、日本全国に衝撃が走りまわりました。

石川県を中心に、北陸地方を襲った最大震度7の地震は、いまだに収まる気配もなく大小の揺れが続いています。キミたちの中にも、もしかすると友人・知人が被災したという人がいるかもしれませんね。被災された方々に、まずもって心よりお見舞い申し上げます。まだ被害状況が詳らかにはなっていませんが、1日も早い復興と回復を祈りましょう。

こういう災害や大きな事故を見ると、ふとこんなことを考える人はいませんか。

「自分はこんなことをやっていていいのだろうか」

「私があの場所にいたらどうしているだろう」

「同じ日本であんなに苦しい思いになってしまっている人はいないか」 などなど。

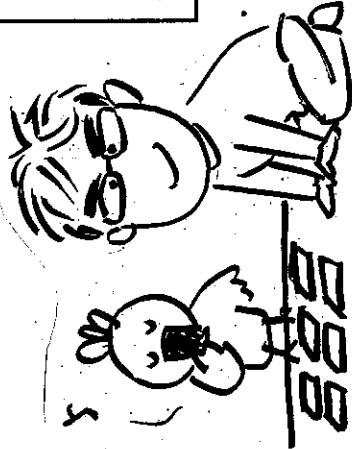
こうして、自分まで苦しい思いになってしまっているのではないかと思います。また、友達と楽しく過ごしたり、暖かいお家で穏やかに過ごしたりしている自分の一種の罪悪感のようなものを覚える人もいるかもしれません。もちろん、そうやって誰かの苦しみを「自分ごと」として捉えることのできる心の優しさは、これからも忘れないでください。

そしてその一方で、被災地から遠いところにいる私たちにはやるべきことがある、ということも忘れないでください。それは、この国の日常生活を、できるだけこれまでもどりに回してゆくということです。例えば大人なら、仕事を含めた経済活動です。高校生なら、高校生活を一生懸命に過ごすことです。これは、直接的に被災者／被災地を応援することにはなっていないかもしれませんが、しかしとても重要な気持ちの切り替え方です。つまり、私たちから率先して前を向こう、そしてまた歩き出そう、というわけですね。

一緒に落ち込むのではなく、被災者に思いを馳せながら、あるいは今も被災地で災害支援をしてくれる全員の皆さんを心の中で応援しながら、私たちは私たちができることを精一杯に頑張りたい。

三田祥雲館高校でも2024年が始まりました。みんなはどんな年にしたいですか。あるいは残り3カ月を切った1年次の間に、どんなことをやりたいですか。そして、3カ月経った後にはキミたちも「先輩」になりますね。

具体的な学習や意識のことについては年次集会で話したので、ここでは割愛します。でもせっかく年が新しくなったわけですから、是非自分の中にも新しい何かを取り込んでみてください。2024年が、あたかも大空へと昇る龍のような1年になることを期待します。今年もよろしく。



〔1～3月の主な予定です〕 ※変更になる場合があります。日々の連絡をよく確認すること。

日付	予定内容	備考
9日 (火)	大清掃、全校集会、年次集会、LHR	・冬課題
10日 (水)	①課題調査(国)、④ボキャコン、授業開始	・冬課題 (国語、探究)
13日 (土)	総合学力テスト (3年秋: 模試・模試スト (～14日))	・電車&バスは休日ダイヤの確認を
16日 (火)	国語小テスト開始、マナーアップ運動 (～19日)	・全員合格
17日 (水)	阪神淡路大震災追悼行事 (朝のSHRにて)	
18日 (木)	英語小テスト開始	・全員合格
20日 (土)	第3回英検	・今年度最後の受検チャンス
21日 (日)	サイエンスフェア in 兵庫	
24日 (水)	新春百人一首かるた大会③④	・防寒着必須
2日 (金)	全校集会	
13日 (火)	①②授業、③大清掃 PM放課	・2月18日(日)まで生徒会館には入れません。学習道の持ち帰りを!
14日 (水)	生徒休業	学年末考査 1週間前
～16日 (金)	学年末考査開始	
21日 (水)	学年末考査終了、卒業式予行	・1年次生は予行の後の式典のみ参加
28日 (水)	卒業式	・1年次生は自宅学習
29日 (木)		
1日 (金)	午前中授業 (～22日まで)、考査返却特別時間割	・午前中授業は原則3限まで
4日 (月)	考査返却特別時間割、プロブレ探究A発表会	
5日 (火)	年次球技大会	
7日 (木)	探究Day	
8日 (金)	①②授業 ③大清掃 PM放課	・3月17日(日)まで生徒会館には入れません。学習道の持ち帰りを!
11日 (月)	生徒休業	
～15日 (金)		
18日 (月)	ステップアップテスト (※未定)、卒業生講話	・ステップアップテストについては、また後日に詳細をお知らせします
19日 (水)	ステップアップテスト (※未定)、新入生、新入生講話	
22日 (金)	終業式	・1年次、お疲れ様

・繰り返し伝えていますが、Google Classroomにアップする連絡を見逃さないようにしてください。

〔1月模試が近付いて来た！…ところでこれまでの模試、上手く活用できている？

～ワンランク上の、模試の味わい尽くし方～

1月13日（土）、22回生にとって1年次最後となる総合学力テスト（以下、模試）が行われます。目標点の入力は済みましたが？

さて、キミたちはこれまでに既に2回の模試を経験しました。返って来た成績表を見ながら悲喜交々…だと思いませんか？ それよりもずっと大切なこと＝「振り返り」についてはどうでしょうか。受験が終わった後の取り組みはしっかりできていますか？

具体的には、①自己採点、②解答・解説の読み込み、③解き直し、ですね。さすがに①をやらないという人はいないでしょうが、②と③は結構いい加減になってしまっている人もいます。でも、模試を味わい尽くすにおいて大切なのは、②や③にどのくらいの意識を持って（時間を掛けて）取り組むか、です。

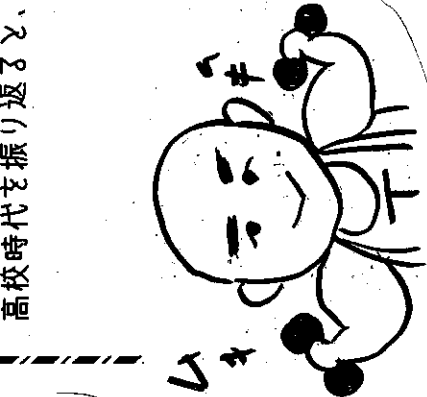
まず②の解答・解説の読み込みですが、解説を読む時は、「正解した問題も、間違った問題も、間違った問題も、全てを読む」ということが大切です。間違った問題についてはもう当たり前ですが、正解した問題も「自分の解き方・思考順路は合っていたのかな？」ということを確認してください。何の確信もなく当てずっぽうで書いた答えがまたまた正解した、という経験は誰にでもあると思います。しかしそれは「理解できている」「自力で解ける」とは言えません。あくまでラッキーパンチが当たっただけで、次に同レベルの問題と出会ったら間違え可能性が高いですからね。

模試当日に確信を持って解いた問題が、解き方・考え方も含めて正解したという場合は、十分に理解できていると考えて良いでしょう。

次の③解き直しですが、これは週末課題などの形で出される場合もあると思います。もし課題として指示されなくても、自分で解き直す習慣は付けておきましょう。

教科によって多少の違いはあると思いますが、個人的には少し日を置いてから取り組むのが良いかなと思います。解答・解説を読んだ直後だと、問題というよりは答えそのものが頭に鮮明に残っていますので、つい「答えを思い出す作業」になってしまうがち。それよりは少し日が経った後に、——具体的に少し忘れかけているかも？ というくらいの日数、例えば1週間後とか、10日後とかでしょうか。人によっても差はありますが——再度解いてみる、というのが良いようです。もちろん、答えを覚えていたとしても、もう一度解き方や筋道を確認するというのは効果は大きいので、必ずやってください。

最後に、ここまでやれば味わい尽くせるという仕上げについてお伝えします。英語や古文・漢文は模試の本文で登場した単語、熟語などをできるだけ拾って覚えておきましょう。中にはマニアックなものも含まれているかもしれませんが、とりあえず自分の知らない単語や訳すことができないフレーズなどを抜き出して辞書で調べる。文法書で調べる。そのためのノートを一冊、作っておくのも良いと思います。単語学習法は、単語帳のみにあらず、あらゆる機会を使って語彙力を高めましょう。確かに、次にその単語を訳すのはいつのことか分かりません。しかし、次に出会った時に、「ハイハイ、知ってるって」とか、仮に忘れていたとしても「あー、前も覚えたことがあるヤツやな」と感じるのが大切なのです。そこでもう一度覚え直せば、きつと頭に刻み込まれるはず。間もなく1年生ラストの模試！ トコトン味わい尽くしましょう。



年次団リレーコラム「あの頃ぼくらは」第5回

今、高校生である皆さんと接している先生方も、かつては高校生だった…。その頃を振り返りながらこれと語っていくリレーコラム。今回は5組担任の竹中先生です。

高校時代を振り返ると、大半は部活動をするために行ってたように思う。

入部したのは陸上競技部。練習は結構大変だったが、中学の部活動と違い、おあらかで伸び伸びと活動ができた。先輩との上下関係も厳しくなく、最低限の礼儀を除けば同級生と同様に話ができるにも関わらず、いざとなれば頼れるという点もありがたかった。競技能力がものをいう世界ではあるが、かといって仲間に変わりはなく、そういう関係だった。さらに今と違って公式試合も記録会もそんなになくて、試合がなければ日曜日が休みということも助かった。おかげで、休日は陸上競技以外の好きなことに没頭した。平日の活動も下校時刻に関係なくやりたいたいやって、帰り道にスポーツ用品店によって雑談するのが日課だった。

練習内容について、すべてに肯定的に取り組んでいたわけではなかった。ノルマとなっていた高鉄棒での懸垂・蹴上がり各10回や合宿の3部練習+ウェートトレーニングといった、出来れば避けたい内容もあった。取り組んでいるときは、へとへとで絶望感しかなかったが、毎回取り組みで達成できるようになり、日々のトレーニングの大切さを知る良い機会にもなった。

ただ残念なのは、2年の春休みに捻挫をして最後の地区予選大会に出場できなかったこと。4月中はアス+松葉杖生活、リハビリが終了するころにはエントリヤーが終了。顧問からはあっさり4月半ばに出場できないことを言われた。これだけは本当につらかった。それから同級生のサポートや入学した1年生の練習指導をして過ごした。県大会から近畿大会へマイル（4×400mリレー）のみの出場となった時点で、サポート、練習指導の必要性がなくなり、高校での部活動は終わりを迎えることになった。

振り返れば、「やればできる」と、「それでも何ともならないこともある」とことを痛感した期間だった。何ともならないとは言っているが、それ以前にやらないと始まらないという面は当然ある。努力の過程で得られたことも多い。競技能力を高めるため歩き方を改善したことや、栄養面やトレーニング内容、個人種目やえの行動すべてに対する自己責任。これらは、今の日常生活にも役立つように思う。

そして何より大きいのは縁だ。仕事に就いたとき、現役時代には顔を合わせていない先輩方から、同じ部・競技の後輩というだけで助けてもらった。これは県外でも、同じ競技者として切磋琢磨した仲間というくらいえ方ができるからだ、と。しかも同級生にとどまらず、先輩、後輩にいたるまで。この縁はとて強く感じる。それだけで、部活動をやってきてよかったと思う。

（第5回・終わり）

